

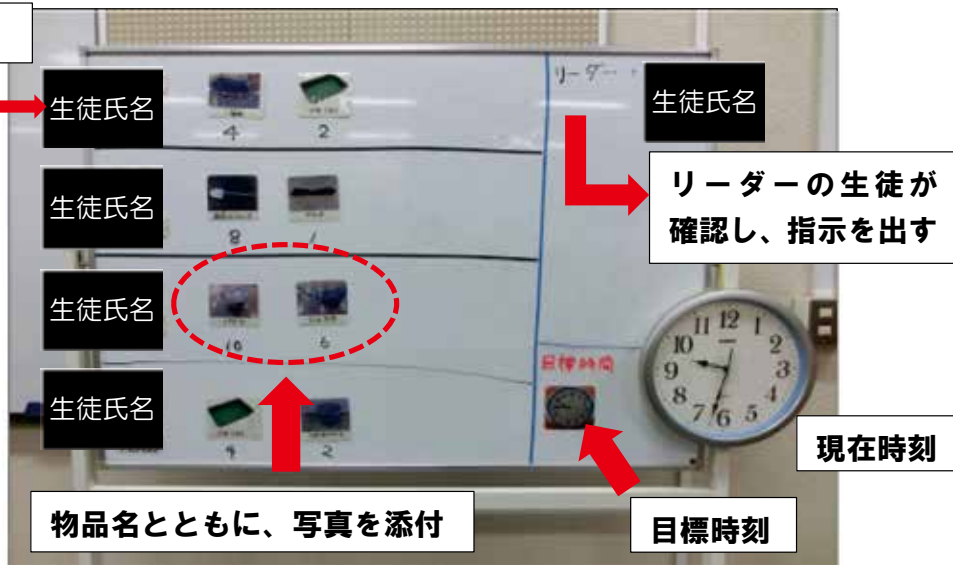
### 3 改善のポイント

#### POINT 1

- 準備の指示をするホワイトボードを見直しました。

2～3人のチーム

目標時刻を明示したことで、時間の意識をもって準備が出来ました。



#### POINT 2

- 作業室や物品倉庫内を整理し、安全に準備ができるようにしました。



すべての物品に名称を添付

在庫数がすぐに分かる



写真があると何を準備したらよいかすぐに分かります。同じチームの友達と協力して準備をすると、準備がとてもスムーズに出来るようになりました。



### 4 授業者がわかったこと

- 打ち合わせ後に生徒同士が声を掛け合い、道具の準備が行えるようになりました。
- 準備に要する時間が10分以上短縮され、作業時間を確保出来るようになりました。
- 扱い方によっては危険な道具もあり、安全管理を徹底することができました。



# 生徒が一人で作業が出来る工程の工夫

<農園芸>

## 1 授業改善の視点

- 商品の出来上がりにばらつきがあり、判断基準が生徒に分かりにくいようです。
- 自分で仕上げた商品が正しい（良品）かどうかの判断が難しいため、自信をもって作業を進めることが出来ません。
- 教員と一緒に行わないと作業が出来ない場面が多く、生徒が見通しをもてていないように感じます。



## 2 専門家からのアドバイスと改善の方策

- 生徒一人一人の「できること」を生かし、工程ごとに分担をしましょう。
- 生徒が一人で作業が出来るように、工程を明示した手順書を準備しましょう。
- 誰が作業しても一定の結果になるよう、補助具等の工夫をしましょう。

### ※教員の関わり方

- 生徒が「一人でできる」ようになると、常に生徒の横で作業の状況を見ている必要がなくなります。教員の配置を見直していきましょう。

## 3 改善のポイント

### POINT 1

- 商品となるまでの工程を分析し、生徒2～3人を1つのグループとして分業しました。

#### ◆Aグループ（品質管理）

傷や虫食い等、品質を見る。

#### ◆Bグループ（選別1）

重さごとに選別する。

#### ◆Cグループ（選別2）

サツマイモを1袋分の重さ（500gから600g）になるように調整する。

#### ◆Dグループ（袋詰め）

サツマイモを袋詰めし、ラベルを入れる。



作業室内も工程に合わせてライン化

## POINT2

- 分担ごとに手順書を作成しました。

最初は手順書を見て、一つずつ確認しながら行いました。

作業の手順が分かると、1人で作業を進めることが出来るようになりました。



Dグループ（袋詰め）の手順書

## POINT3

- 分業化したグループごとに連携し、生徒同士がやり取りする機会を増やしました。

教員が間に入るのではなく、生徒同士で必要なやりとりをするようになりました。



## POINT4

- Cグループ（選別2）では、具体的な判断基準が分かるように、重さ別に色分けしたカゴを利用し、生徒が自分で分かるようにしました。



200g前後  
青いカゴ

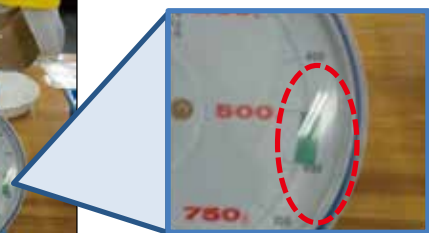
300g前後  
黒いカゴ

① 1個ずつ取る

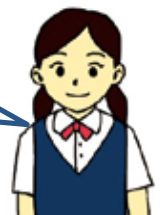
② 重さを確認



③ 緑色の範囲なら完成



私には難しいと思っていた選別の作業でしたが、手順に沿って行えば、効率よく作業を進めることが出来たので、自信ができました。



【Jさん】

## 4 授業者がわかったこと

- 生徒が自分で判断できるように工夫したことで、生徒が自信をもって作業を進められるようになりました。
- 農園芸では、季節や天候により様々な作業が予測されるため、具体的な一定のルールを設定したり、補助具を工夫したりすることが大切であることを再認識しました。



# 企業関係者との連携

## ～就労支援アドバイザーの活用～

生徒が地域での自立した生活を目指し、具体的な目標を持って学ぶ姿勢を身につけていくためには、作業学習・現場実習はもとより、学校生活全体を通じたキャリア教育・職業教育を充実し、「働くこと」への意識を育てることが重要です。就労支援アドバイザー等を活用し、企業との連携により具体的なノウハウやスキルを学び、生徒一人一人の職業人として必要な「働くこと」の意欲を高めていきましょう。



### 「企業が学校教育に関わって感じていること」

横河電機株式会社 箕輪優子

東京都教育委員会の「就労支援アドバイザー」の委嘱を受け、特別支援学校の先生方が「授業改善」に取り組む際に、企業の立場で関わらせていただいております。

先生方も実感されているとおり、「作業学習」は、生徒が教科等の授業で学んだことや習得した能力を総合的に活かせる教育の場です。

生徒の皆さんが、在学中だけでなく卒業後の地域社会でも自己選択、自己決定をしながら快適な生活を送ることができるよう、そして QOL の向上がはかれるように「作業学習」で意識していただきたいことがいくつかあります。

#### 1. 作業学習をとおして生徒に身につけていただきたいこと

##### ①自分の意思を伝える手段

自分の意思を、言葉や文字で表すことが得意ではない生徒のコミュニケーション手段の例として「教職員が予測した生徒の意思を代筆や代弁をする」「教職員が生徒の要望を想定し、生徒が YES か NO で回答していく」という方法があります。

最近では、生徒が自分の意思をより正確に周囲に伝える手段として、生徒自身が ICT 機器（タブレット端末やパソコン）を活用している学校も増えています。作業学習でも、自分の意思を周囲に伝える機会を増やし、よりスムーズに且つ正確に自分の意思を伝えられる手段を習得していただくことで、学校生活や卒業後の地域生活がより充実するのではないのでしょうか。

##### ②環境を整えば「自分一人でもできる」という自信

工程分析や適材適所の実現など、作業環境を整えることにより「自分でできる」ということを、生徒自身が実感できる機会を作っていただくことも重要です。「自分でできること」が増えると自尊心やチャレンジ精神も培われ、成長していることを生徒自身も先生方も実感できるのではないのでしょうか。

